

教育ボランティアだより No.8

2011年12月20日 附属教育実践総合センター

◇ 12月14日に韮崎市立穂坂小学校を訪問させていただきました。穂坂小では、前後期合わせて5名が教育ボランティア活動を行っています。祝校長先生をはじめとした先生方が、教育ボランティア学生・院生とのかかわりを大事にされていること、活動しやすい環境づくりへ向けて様々な配慮をされていることが強く印象に残りました。



5年生算数科「平行四辺形の面積」の授業です。



公式を用いて計算できるように個別指導をしているところです。

《大学院 障害児教育専攻1年 長沼健吾 さん》

- ・大学の授業では学ぶことができない「子どもとの距離感」を感じられ、知識と現場の現実とを結びつけられ勉強になります。少人数学級の現実がリアルに分かる穂坂小の雰囲気、他の学生にも体験してほしいです。
- ・先生方とは気軽に話せる関係ができていますので、指導上の悩みや分からないことを遠慮なく聞いています。

※穂坂小教諭で、昨年度まで教育ボランティア活動を行っていた八巻京平先生にお話を聞きました。

- ・子どもとかかわる機会をつかったことで、実際に自分が教育現場に入るとき順応できたことがすごく大きかったです。
- ・もちろん教育ボランティアですべてを学び取るわけではないが、何も見えない状態にいるという不安は解消されます。
- ・一口に学校といっても、規模や子どもも様々なので、いろいろな学校にいった方が適用がきくと思います。学ぶ意欲をもつということが一番大事です。

祝とよ子校長先生・横森清先生のお話

【授業・プラスバンドにおける活動について】

- ・年齢が近いのと継続してきていることで、子どもの心理をよくつかんで活動し、休み時間も一緒に遊んでいる。
- ・担任の考えで、様々な活用の仕方を取っている。きめ細かな指導ができる点が良い。この制度のすばらしさを感じている。
- ・プラスバンドの指導では、自分たちの楽器を持ってきて指導してくれた。子どももとても楽しみにしている。
- ・教員は後輩を育てるという意識をもって学生と接し、声かけや相談に乗っている。教員と学生の気持ちがつながっている。
- ・教育実習とは違い、独り立ちしなければならない面があるので、自覚が生まれて教師になるときにつながるのではないかな。
- ・学校HPのブログでも、教育ボランティアと児童のかかわりの様子について紹介しているので、見てほしい。

【学生の様子について】

- ・子ども好きで、子どもの支援も上手である。礼儀正しく、態度もよく、大変しっかりしている。
- ・学校行事にも意欲的に参加するなど熱意を感じる。また、先生方からいろいろと学び、吸収しようとする気持ちを持っている。

穂坂小では、教育ボランティア活動を円滑に進めるために「ボランティアの心得」を作成しています。

◎ ボランティアの心得

ボランティア生は、学生という自由な立場ではなく、児童にとっては穂坂小学校の教師であることの自覚を持つ。担当教師の指示を仰ぎながら、指導の支援を進めていく。

1 勤務

- 1 ボランティア開始時刻の遅くも10分前には出勤し、職員室でボランティア出勤簿にサインする。
- 2 帰時も職員室より、帰ることを告げて退庁のサインをする。
- 3 活動後もしくは、事前（電話連絡・メール連絡・ファックス等）に担当教師と次回の確認をする。
- 4 休み時間には、できる範囲で児童との交流を図り、児童理解に努める。
- 5 児童と接する時には、常に生活指導を忘れず行う。
- 6 児童を差別しない。公平を原則とする。
- 7 服装や言動には気を配り、児童の範となるよう心掛ける。
- 8 児童の成績・短所等校務活動上知り得たことを外部に話してはならない。
- 9 病気や事故等で欠勤・遅刻・早退をする場合は、
学校（校長もしくは担当教諭）に電話連絡する。

2 学習指導

- 1 学習指導は、担当教諭の指示・指導（授業でのTT、個別指導など）による。
- 2 指導内容は、担当教諭の指導意図や範囲に添うものとする。個人的判断で逸脱しないようにする。分からないことなどは、担当教諭に尋ねる。

3 その他の留意事項

- 1 常に、児童の健康安全に関心を持つ。（具合の悪い児童がいたら担当教諭に連絡）
- 2 禁止事項（児童に対する賞罰、許可無く執務中に校外に出ることなど）
- 3 備品・校具類は丁寧に扱い、校外に持ち出したりしない。使用する時は許可を受ける。
- 7 その他、担当教諭の学級運営の支障を来すような行為は慎む。